

## 令和2年度 県立牛久栄進高等学校自己評価表

目指す 学校像	技術革新やグローバル化、高齢化により社会環境の変化が激しさを増す社会を柔軟に生き抜き、新しい価値を創造するのに必要な、自主自律の態度と豊かな人間性を身につけた、進取の気概あふれる創造性豊かな青年を育てるような学校づくりを目指します。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成 状況
普通科単位制高校に改編した平成10年以降、「活力ある進学校づくりー単位制のメリットを生かし、主体的に学習する生徒の育成ー」を一貫して組織目標として継承、「活力ある進学校」、「個に応じた学習指導」、「自主独立の人づくり」を中期的目標として、教職員と生徒との信頼関係をもとに学校全体が一つになって取り組んできた。その結果、国公立大学に毎年100名前後の現役合格者を輩出するようになり、昨年度は現役国公立大学合格者数126名であった。これは、生徒一人一人の進学希望実現に向け、単位制の特長を最大限に生かして、きめ細かな教科指導・進学指導に取り組んできた結果と考えられる。単位制改編後の飛躍的な進学実績の躍進を評価するとともに、今後も単位制の特性を生かした様々な取組みを積極的に推し進め、生徒一人一人の進学希望を実現していきたい。	教科指導 ー主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業展開ー	ア 新学習指導要領に対応した、単位制のメリットを生かす教育課程の編成及び主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業の展開により、生徒の学力向上を図る。 イ カリキュラムマネジメントの視点から教科を超えた協働体制を構築し、「チーム栄進」として高水準の教育活動を実践する。	4
また、規範意識を高める教育を継続して進めるとともに、豊かな心を育てる教育や安全・防災教育にも力を注ぐ。	特別活動 ー積極的に参画する活動の促進ー	ア 生徒会活動、部活動、学校行事をとおして自主的精神を養い、行動力を培うとともに、より良い人間関係の形成を図る。 イ キャリアパスポートを活用して自己理解を深め、生徒が自己の良さを生かし自己肯定感を得られるようにする。 ウ 生徒同士、教職員と生徒が相互に敬意を持って学校行事などに参加し、活力ある学校づくりを推進する。	3
さらに、ICT教育など社会の変化に対応した教育環境づくりに取り組む。	生徒指導 ー社会的責任を自覚し、良識ある行動のとれる生徒の育成ー	ア 成人年齢の18歳への引き下げを視野に入れ、学校生活全般に於いて生徒の規範意識の高揚と道徳的実践力の向上を図り、自律的で調和のとれた生徒を育てる。 イ 他者を尊重する態度を養い、生命の尊さを認識させるとともに、安全教育を重んじて生徒の危機察知及び危機回避能力を高め、事故やいじめの未然防止に努める。	3
また、規範意識を高める教育を継続して進めるとともに、豊かな心を育てる教育や安全・防災教育にも力を注ぐ。	進路指導 ー生徒一人一人の進路希望の実現を目指した丁寧な指導ー	ア 教員一人一人が進路指導力を高め、生徒の進路希望を高い次元で実現できるよう研鑽に努める。 イ 各年次や各教科と「e-Top推進室」の連携を強化し、難関大学への進路希望実現に向けて確実で有益な情報提供及び学習指導の充実を図る。	3
さらに、ICT教育など社会の変化に対応した教育環境づくりに取り組む。	国際理解教育 ー国際交流と海外派遣ー	ア 国際交流事業を通じて視野を広め、世界各国の文化への理解を深めることで、グローバル社会で活躍する人材を育成する。 イ 海外派遣等を実施し、体験をとおして、自国の文化の理解を深め、異文化を理解・尊重する国際協調の精神を育てる。	2

		保護者及び地域社会との連携 ー地域に開かれた学校作りの推進ー	ア 各種メディアを活用し、本校の教育活動や学校情報を積極的に発信する。 イ 保護者と学校が連携を密にし、生徒の健全育成と進路希望の実現に向けて協働・支援する。 ウ オープンハイスクールや各種説明会、中学校訪問をとおして、中学生や地域社会に本校についての理解を更に深めてもら。 エ 地域との連携を強化して、地域活動等にも積極的に協力し、地域社会の期待に応え信頼される学校作りに努める。	4		
		働き方改革の推進 ー働きがいのある職場づくりー	ア 国や県の施策を踏まえ、ワークライフバランスをとりながら、教職員が自らの指導力を高め、教育の質の向上が図れるよう、働き方改革を推進する。	3		
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題	
教科指導	自ら考え学ぶ姿勢の育成と確かな学力を身につけさせるための工夫改善に努める。	生徒が自ら課題を設定し、主体的に探究する姿勢を育成するため、思考力・判断力・表現力を問う授業や知識・技能を活用する授業への転換を図る。	生徒が目的意識をもって自主的、意欲的、継続的に学習する態度を育成するため、各教科、各年次における週末課題や、生活・学習の記録「進路手帳」等の活用について連携する。	4	4	学力向上に向けた授業改善に真摯に取り組む。新教育課程実施に向けて、観点別評価につながる学習指導法の研究を進める。ICT機器等を活用した効果的な学習について検討する。
	学習指導法の改善に努める。	生徒一人一人の能力・進路に応じて、少人数授業・T T授業・小テスト・学力向上ゼミ等を実施する。また、3年間を見通した指導計画に基づき、指導法や教材の選択などを工夫・研究する。		4		
	観点別学習指導及び観点別学習状況評価の研究に努める。	観点別学習指導の趣旨を生かした、豊かな内容ときめの細かな学習指導の研究に努め、観点別学習状況の評価について研究を進める。		3		
国語	基礎学力の定着と発展的学習のための指導の充実を図る。	科目担当者間の連携を密にし、教授資料や授業方法の共有化を図るとともに、授業の改善を図る。 生徒に適した教科書教材を精選するとともに、これからの求められる学力を視野に入れ、新しい教材を検討する。		3	3	年次を越えた縦の連携を今まで以上に取る。ICT機器を活用するための教材の共有を進める。主体的に自ら学ぶ力の育成については成果が不明である。
	自ら学ぶ力の強化を図る。	家庭学習を習慣化するための課題や小テストを定期的実施する。 自ら学ぶ力を強化するために記述力育成に向けた指導を行うとともに、問題集や参考書を精選し使用する。		4		
教科	地歴公民	生徒の基礎学力向上を目指した授業の工夫を行う。	小テストなどを適宜実施して、基礎的・基本的事項の定着を図る。また、視聴覚教材の開発やI T機器の利用などを通じて、授業内容の充実を図る。	3	3	科目相互の連携をはかりICT機器を効果的に活用しより主体的な学習ができるようにする。
		多面的なものの見方と思考力の育成を図る。	科目担当者間の連携を密にして情報交換を行うとともに、史料や各種統計資料の積極的活用、テーマ学習への取り組みなどをとおし、社会的・歴史的・地理的事象に対する主体的分析力・考察力を涵養する。	4		
	数学	学力の向上を目指した指導を充実する。	課題提出や小テストを定期的に行い、学習習慣の確立を図る。 科目担当者の連携を密にし、授業の進め方やICTの利用に関する知識の共有、生徒の学力・論理的思考力の定着度合の分析を行い、課題を明確にして指導に生かす。	4	4	教員間の連携を密にししながら、iPad等を利用した動画作成オンラインを利用し指導の工夫を共有する。
		個に応じた授業の充実を図る。	T Tや問題演習の時間を充実させ、主体的に取り組むことのできる授業や課外を実践する。	3		
理科	日常の授業を通じて科学的な観察力・思考力を育成する。	実験や実習を効果的に取り入れ、生徒の興味・関心を高めると共に科学的な思考力の育成を図る。	3	3	実験・実習の時間確保及び新教育課程のもとでの適切な授業の進め方について、科目担当者間で検討する。	
	基礎学力の充実を図り、共通テストのみではなく、2次試験の学力までの養成をはかる。	教科書を中心に基礎学力の徹底的な育成を目指し、相互の授業参観・考査問題研究を積極的に行う。さらに入試問題の研究をすすめる、教員の指導力を高める。	3			

教科	保健・体育	授業内容の充実を図る。(体育)	生徒の体力向上及び個人技術の段階的な向上を図り、ゲームを工夫する。	3	4	更衣の場を変更したり、活動の場の分散等、環境面の感染症対策を可能な限り行い、より質の高い活動を推進していく。
		体育授業における事故防止に努める。	準備運動の徹底を図り、安全・健康に留意して行動する態度を育てる。施設・設備の安全確認を励行し、事故防止に努める。	4		
		授業内容の充実を図る。(保健)	視聴覚教材を積極的に活用した授業を展開し、健康の保持・増進のための実践的な能力を育てる。	4		
	芸術	基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ることにより、創造的な能力を育てる。	可能な限り個々に応じた丁寧な指導を目指す。	3	3	新型コロナウイルス感染症予防対策に合わせた授業における工夫が必要である。また、創作活動をより推進していきたい。
			各種コンクールへの出場・出展を促すとともに、入賞できるような効果的指導を目指す。	3		
		生徒一人一人が、実践的・体験的な諸活動に主体的に取り組むことにより、芸術を愛好する心情を養う。	さまざまなジャンルの音楽会・展覧会等を紹介する。	3		
			新聞記事等から豊富な話題を提供する。 展示コーナーの活用を図る。	3		
	家庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力の向上を図る。	最新の情報を取り入れながら興味・関心のもてる教材を取り入れ、理解しやすい授業を工夫し展開する。	3	3	新型コロナウイルス感染症予防対策に合わせ実験・実習を行うための授業を考え、工夫していく必要がある。
			実験・実習・視覚教材などの体験学習を多く取り入れ、ノート提出や課題など点検を通して学習態度の育成を図る。			
		作品の完成・提出により達成感を持たせる。	実験・実習などをとおして各種技能・知識の向上を図る。	2		
	英語	英語の学力を向上させる。	教科書の予習・復習を中心とした学習法を徹底させ、4技能のスキルアップを図る。	3	3	年次間の連携をとっていく。1年間の指導計画、使用教材等を年次の枠を越えて、共有し、生徒に還元していける工夫が必要である。実行に移していくのが次年度課題である。
			サイドリーダー、課題、長文問題集、文法問題集、単語集等、副教材を吟味し質的量的充実を図る。	3		
			定期考査結果、模試結果をその都度分析し、活用する。更に、英語検定の受検指導を強化し、生徒の進路実現に寄与する。	3		
			1年次では、CEFR A1～A2、2年次では、A2～B1レベルの力を身につけさせることを目標とした授業を行う。 1年次では、英語検定準2級、2年次では、2級の全員合格を目指す。	2		
		授業研究の徹底を図る。	定期的に授業研究を実施することによって、指導技術の研鑽を図る。	2		
			教科会等を通じて、年次内・年次間の連携を密にし、教材の共有や中・短期的教科指導法を見直し改善していく。また、使用した教材等の情報を各年次間で共有し、次年度の指導に役立てることができるようにする。	2		
情報	生徒の情報活用能力の育成を図る。	学校行事と連携した学習課題を題材とし、生徒の関心を高め、情報の収集・処理・発信などの実習を行う。	3	3	授業に関わる学校行事が中止になった場合に備えた教材の開発が必要である。Classroomの活用を促進する。	
		情報モラルやセキュリティなど、情報機器や情報通信ネットワークを活用していくうえで配慮すべきことを考えさせる。	3			
	教員の授業実践力の向上を図る。	校外の研修をとおして、優れた実践事例等に学ぶことに努める。	3			

教務	授業時間の確保に努め、授業力の向上を図る。	授業交換や填補を確実にを行うとともに、行事の精選・日程の工夫等により、授業時間の確保に努める。	4	4	授業力向上に向けた研鑽に努めるとともに、単位制の特色を生かした教育課程の編成を行う。ICT機器を活用した効果的な授業や学習方法について、工夫・検討する。
		授業・指導法に関する研究協議、公開授業等を実施し、授業研究週間等での相互参観を積極的にを行いながら、授業の質の向上と優れた技術の共有化を図るとともに、教科・年次・分掌間の連携を基にした組織的な指導体制の構築に努める。	4		
	単位制のメリットを生かした教育課程編成の工夫を行う。	生徒の進路実現のための効果的な教育課程編成や履修パターン等の内容を検討し、新教育課程入試に対応できるよう改善を図る。また、新学習指導要領導入に向けて教科横断的な指導や探究型の指導の方向性を検討する。	3		
	地域社会に対して本校教育活動等の情報発信等に努める。	学校ホームページやインフォメーション(学校案内)等の内容を充実させる。また、Eishinオープンハイスクール、学校公開等をおして、積極的に本校の情報提供やPRを行う。	3		

特別活動	生徒会活動のさらなる活発化を図る。	学校行事に積極的に参加させることで、委員会活動やHR活動の活発化を図り、生徒が自主的に考えて行動できるようにする。	2	3	今年度、感染症予防対策として学校行事のほとんどが中止又は縮小となり活動が制限された。この状況下で出来ることを検討していく必要がある。
	キャリアパスポートの活用	キャリアパスポートを活用し、生徒が自己理解を深め、自己肯定感を得られるようにする。	2		
	部活動への積極的参加を図る	大会、コンクール等における各部の実績内容を定期的にPRすることで、部活動参加率を上げ、生徒の自主的・実践的態度を育てる。	3		
生徒指導	生徒の規範意識の高揚と道徳的実践力の向上を図り、自律的で調和のとれた生徒を育てる。	全職員の共通認識のもと、頭髪・服装指導をあらゆる機会を通じて継続的に実施する。 登下校指導やマナーアップキャンペーンにおいて、生徒の主体的な参加・活動を促す。また、登下校指導への保護者の参加・協力を促進する。	3 2	3	感染症予防対策の観点から様々な活動が制限された。特に生徒の校外における活動や、保護者への協力要請については十分な活動ができなかった。現状が続くのであれば、校内で教員と生徒によって行えることを充実させていきたい。
	他者を尊重する態度を養い、命の尊さを認識させるとともに、危機察知及び危機回避能力を高めて事故やいじめの未然防止に努める	通学路において、定期的に登下校指導を実施するとともに、危険箇所の把握、情報提供を実施し、事故の未然防止に努める。	4		
		HRや「道徳」、交通安全講話・いじめ防止教室・薬物乱用防止教室等の学校行事をとおして、自他の人権、生命の尊重及び危機管理意識を養う。いじめの問題の克服に向けて、計画的に未然防止・早期発見につとめる。	3		
進路指導	生徒一人一人の希望進路実現を学校全体で支援する。	「進路の足跡」「進路手帳」「進路だより」などの発行、及び受験関係書籍の有効な活用を図るとともに、生徒との個別面談を充実させる。	4	3	コロナ禍が続く中、オンライン活用や年次をこえた連携が求められる。 11月実施の進路説明会について運営の在り方を検討する。
	国公立大及び難関私立大への進学率向上を学校全体で支援する。	先進校視察、模試結果分析、進路検討会、進路講演会などを行うとともに、e-Top推進室が、各年次・教科と連携し、「e-Topゼミ」「難関大スタディーツアー」などを実施し、難関大学を目指す生徒の支援・育成を図る。	3		
保健厚生	生徒自らによる心身の健康管理能力を養う。	疾病予防や早期発見のために健康診断と事後指導を確実に行う。 心身の健康状態の把握に努め、健康相談、助言・指導を行う。	3 3	3	授業時に保健室を利用する生徒の連絡を徹底させる。新型コロナウイルス感染症予防対策を、継続して徹底する。
	生徒の学校生活での福利厚生及び校舎内外の環境美化を計画的に推進する。	日本スポーツ振興センターおよび奨学生の事務取扱を円滑に行う。	3		
		パン・牛乳販売の連絡を円滑に行う。 校内の安全点検や清掃の徹底、及び校舎内外の環境美化運動を通して生徒の美化意識を高揚させる。	3 2		
	防災意識を高め非常時に適切な行動がとれるようにする。	緊急避難体制を確立させ、地震を想定した避難訓練を実施する。	3		
図書館	蔵書資料の充実を図る。	年度当初に各教科等の購入希望図書を把握し、速やかに対応する。さらに授業での利用を意識した蔵書資料の拡充を行う。生徒向け図書については、図書委員の意見積極的に取り入れ、時宜に合わせ購入していく。新刊情報収集や小論文入試等のトレンド把握に努め、蔵書資料の充実を図る。	4	3	新型コロナウイルス感染症予防対策を継続し、安心して図書館が利用できる環境を維持する。具体的には座席数を40席に制限し、常時換気を行う。また機の消毒を1日に2～3回行い、入館・退館時の手指消毒の徹底を呼びかける。
	図書館利用の増加を図り、生徒の学習活動の支援をする。	読書や学習に必要な書籍の情報を提供するとともに、図書委員との打ち合わせを密にし、生徒を引きつける書籍の展示方法を工夫する。また読書スペースや学習室として利用しやすい環境整備に努める。	3		
	視聴覚機器の整備及び円滑な利用に努める。	視聴覚機器の整備・充実を図り、学校行事等での放送機材の円滑な運用に努める。	3		
渉外	会議・委員会を円滑に進める。	係分担を明確にし、分かりやすい資料で会議が円滑に進むよう十分な事前準備をする。	3	3	新型コロナウイルスに対応できる活動方法を考えていきたい。
	保護者が参加しやすい活動を展開する。	会員が参加しやすい研修や、興味ある内容を盛り込んだ講座を企画するために各種委員会運営を円滑に行う。	2		

教育相談	カウンセリングを実践する。	問題を抱える生徒の早期発見に努める。	3	3	感染予防対策を徹底したカウンセリングの運営、自殺予防などの職員研修をより充実させていきたい。
		生徒・保護者・職員に対する、スクールカウンセラーを活用した相談活動を行う。	4		
	特別支援教育の充実を図る。	特別な支援を必要とする生徒に対してより適切な支援を行う。	3		
		ニーズの度合いに応じてケース会議、職員会議、あるいは職員研修を実施し、共通理解を深める。	3		
情報	校内でのICT教育の促進。 情報リテラシーの浸透。	校内でのICT教育を促進するために、ハード面・ソフト面の環境を整備する。 職員の情報リテラシーを高める為に『情報通信』の配布や、『研修』を不定期に行う。	3	3	GIGAスクール構想に向け、ハード・ソフト両面の充実をはかる。
1年次	基本的な生活習慣と規範意識を確立させる。	時間厳守の精神を養うため、遅刻指導や提出物の期限を守らせる指導を行う。	3	3	大学・研究所訪問や外部の方を招いての職業観セミナーが行えなかったため、次年度は実施できるように計画を立てる。
		規範意識の向上をはかるため、服装指導、登校指導などを徹底する。	3		
	基礎学力の定着に必要な学習習慣を確立させる。	予習・復習を徹底させ、授業に大切にすることを養う。	3		
		週課題や小テストを計画的に実施し、基礎学力の定着を図る。	4		
自己分析を促し、進路選択ができるようにする。	大学・研究所訪問や職業観セミナーなどを通じて、進路選択における情報を提供する。	2			
	学習、特別活動や総合的な探究の時間などを記録させ、生徒の自己分析と自己理解を促す。	3			
2年次	授業の充実と生徒の学習意欲を高める工夫により、基礎学力の更なる定着を図る。	予習・復習を徹底させ、小テストや追試を計画的に実施することで、授業を大切に、授業に真摯に参加する姿勢を養う。	3	3	修学旅行を実施することができなかった。しかし、対応は迅速かつ確だったと考えている。次年度以降の対応の参考にしたい。
		「進路手帳」を利用した面談や学習記録、振り返りをおとして、生徒自らの現状を把握させるとともに、自主的・計画的に学習する姿勢を養う。	4		
		毎週の課題や課外の計画的な実施を通じて、課外学習を促進し、基礎学力の定着を図る。	4		
	大学研究、および学部・学科研究を深めることで、進路意識を高め、将来を見据えた進路設計ができるようにする。	様々な進路学習への参加、およびオープンキャンパスへの参加と報告書の作成を通して、自己理解を深めるとともに大学について知識を広め、進路意識を向上させる。	3		
		小論文学習や模擬志望理由書の作成を通じて、自己分析力を向上させ、進路意識の高揚を図る。	2		
	特別活動や総合的な探究の時間等をおとし、集団における自己の在り方を見つめさせ、充実した高校生活の実現を図る。	進路説明会の実施、保護者面談などによって保護者との連携を密にし、家庭における進路意識の向上と、情報の共有を図る。	3		
		部活動や学校行事に積極的に参加させ、協調の精神とたくましい心を養う。	3		
		実り多い修学旅行とするために事前・事後学習を充実させ、また修学旅行をおとして、集団行動のなかでの協調性や連帯感を醸成する。	2		
3年次	学力の向上と伸長を目指す指導と、個々の生徒にあわせた進路指導体制の充実を図る。	「道徳プラス」の実施により、道徳的判断力や道徳的実践意欲と態度を身につけさせる。	3		
		自宅学習期間においては、動画配信、課題、面談などにより自力で学力を伸ばすことができるよう支援を行う。	4		
		学校再開後は、授業の充実を図り、生徒の視線を学校へ向かせる努力を全体で遂行する。	3		
		年次内で生徒の進路情報を共有して生徒理解に努め、個別面談等を通して個に応じた進路情報を提供する。	3		
	高校3年間の総括として、全生徒が充実した学校生活を送ることができるように十分な支援を行う。	難易度に応じた様々な課外の実施や、課題の配布により生徒の能力に応じた演習の場を提供し、個々のニーズに応え、多様な進路実現の場を提供する。	3		
		保護者対象の進路研修会を実施し、保護者への進路情報の提供と生徒情報の共有に努める。	3		
		最高年次としての誇りと責任感を意識させ、可能な範囲での学校行事や各種活動をおとして、協調精神とリーダーシップを育成する。	3		
	社会に関心を持ち、自らの役割を考え、非常事態においても落ちついた行動ができるよう支援する。	3			
	高校生らしい服装・容儀の指導を徹底し、自立を促す指導を行う。	3			
	個別面談や保護者との連絡を密にして、生徒が抱える問題へのきめ細やかな対応を心がける。	4			

評価基準：「4」大変よく出来ている 「3」よく出来ている 「2」やや不十分 「1」不十分 「0」わからない